

各位

公益財団法人 大山健康財団
理事長 神谷 茂

令和元年度「第46回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第2回竹内勤記念国際賞」受賞者並びに「第46回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和元年度の「第46回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第2回竹内勤記念国際賞」受賞者各1名、並びに「第46回学術研究助成金」受贈者10名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成30年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は令和2年3月19日（木）午前11時30分から霞が関ビル35階霞ヶ関東海倶楽部（東京都千代田区霞が関3-2-5）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

令和元年度「第46回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 かのう しげゆき
狩野 繁之 国立研究開発法人国立国際医療研究センター(NCGM)研究所
熱帯医学・マラリア研究部
部長
医師 医学博士（満60歳）

【業績内容】

狩野繁之氏は、国立国際医療研究センター（NCGM）の研究者として、アジア太平洋地域の発展途上の国々で、長年マラリア対策の医療協力を尽力されました。

狩野氏が群馬大学からNCGMの研究部長に異動した1998年、橋本龍太郎首相（当時）が「国際寄生虫対策」をG8サミットで提唱したことを受け、JICA事業、いわゆる「橋本イニシアチブ」が始まることとなり、狩野氏は竹内勤慶應義塾大学医学部教授（当時）と共にそのプロジェクトをタイ・マヒドン大学で立ち上げ、学校保健を基盤としたマラリア対策に5年間にわたりJICA短期専門家として関与し、着実な成果をあげられました。

その後も、マヒドン大学医学部（FTMMU）とのマラリア対策に係る共同研究を客員

教授として続け、NCGMとFTMMUの包括的共同研究協定(MoU)締結にいたるなどの業績もあげられ、橋本元総理が2003年に授与されて以来の「名誉博士号(熱帯医学)」を2018年に授与されています。

また、フィリピンやソロモン諸島国の最も開発が遅れた島々では、マラリア診断・治療のサービスデリバリーが、辺境に住む貧しい人びとに届くような「ヘルスシステム強化」に尽力され、フィリピンパラワン島でShell(石油会社)と組んでGlobal Fundの獲得に成功され、ソロモンではJICAのODAプロジェクトの下で、それぞれ20年余りにわたって協働し、このマラリアのUniversal Health Coverage(UHC)の2030年の達成を両国の目標とされ、2018年にはフィリピン大学とNCGMはMoUを結び、客員教授として学生教育に当たりながら、若い人材育成にも尽力されています。

2014年からはJICAとAMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)が共同で実施するラオス人民民主共和国の「地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)」プロジェクトに、プロジェクト代表として関わり、薬剤(アルテミシニン)耐性マラリアの出現と拡散に関する質の高い研究成果を創出し、エビデンスに立脚したラオス政府のマラリア政策立案に大きく貢献され、同プロジェクトはラオスで我が国のODA事業の著しい成果を創出したとして高い評価を受けています。

狩野氏は、ラオス国立パスツール研究所だけでなく、世界パスツール研究ネットワークとのMoU締結も2018年に先導し、広く世界の発展途上国のマラリア対策に資する研究基盤を形成されました。

さらには、2017年からGlobal Fundのマラリア技術審査委員会(Technical Review Panel)委員に(日本政府から推薦され)選ばれ、マラリアの流行するアジア・太平洋地域の発展途上国からGlobal Fundに提出されたコンセプト・ノート(申請書)を審査し、支援案件の推薦を行うなど、世界のマラリア対策の最先端の現場で極めて顕著な働きをされています。

国内にあっては、一般社団法人日本熱帯医学会の理事長を2020年まで延べ9年務めて学術の発展に貢献するばかりでなく、認定NPO法人マラリア・ノーモア・ジャパンの理事として市民社会でのアウトリーチ活動も展開されるなど、あらゆる角度からマラリア対策への貪欲な活動を行われています。

令和元年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 なち さとこ 名知 仁子 特定非営利活動法人 ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会(MFCG)
代表理事
医師 (満57歳)

【業績内容】

名知仁子氏は、ミャンマー連邦共和国の農村部で巡回診療(移動クリニック)を行い、そこに暮らす住民の命と健康を守られています。活動地域であるミャウンミャは、西南部のデルタ地帯・エーヤワディ地方区の一地域で、人口29万人ですが、無医村の集落が多くあります。

かつて日本の大学病院に勤務されていた名知医師は、国際緊急医療支援に参加し、ミャンマーの貧しい農村で病に苦しみながらも病院へ行く事の出来ない人たちと直面しました。継続的にミャンマーの農村の人々と向き合うため、自らNPOを設立し、日本とミャンマーの人々とともに、現実にあるこの課題を解決することに取り組まれています。しかし、この問題を解決するためには、医療だけではなく、コミュニティの健

康を目指す活動が不可欠となります。

そこで、ミャンマーの無医村で医療・菜園を通じ保健衛生・栄養などを学ぶ機会を提供し、彼ら自身が生活環境の課題を解決し、命を育む未来を描ける社会の実現をサポートすることを目指されています。

名知氏は、ミャンマーの人たちと同じ目線に立ち、彼らの問題を一緒に考えながら、目標の実現に向けて、具体的に3つの活動「巡回診療（移動クリニック）」「保健衛生指導」「家庭菜園支援」を展開し、定着するように、挑戦を続けられています。

令和元年度「第2回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】 ^{たかはし まさよし} 高橋 匡慶 キヤノンメディカルシステムズ株式会社
分子検査ソリューション事業推進部
グループ長 (満47歳)

【業績内容】

高橋匡慶氏は、東芝研究開発センター入社以来、独自技術のDNAチップを用いた遺伝子検査システムの研究開発に従事してこられました。

2015年、西アフリカでのエボラ出血熱のアウトブレイク時には国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の研究班に参加し、蛍光LAMP法(Loop-Mediated Isothermal Amplification)による迅速検査システムを開発され、我が国の緊急支援の一環としてギニア共和国にこのシステムを供与し、技術指導を行われました。

また、2016年にブラジルでのジカ熱の流行が世界的問題になった折、蛍光LAMP法による迅速検査システムの開発に着手され、高橋氏が中核となって開発に取り組み独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)承認を取得、社会実装を実現されました。

因みに、本研究の臨床性能試験は、故竹内勤慶應義塾大学医学部教授等が30年以上にわたり支援しつくり上げてきたブラジルのLIKA研究所で実施されました。

高橋氏等は、現在も同研究所と研究協力を継続しており、故竹内勤教授の日伯連携感染症の偉業、研究資産を引き継ぎ発展させています。

令和元年度「第46回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
^{いずみだ まい} 泉田 真生	長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野/医歯薬 学総合大学院 生命医科学領域 助教	フィリピンの呼吸器ジフテリア感染症における重症化関連因子の包括的探索～菌体側、宿主側、臨床側の観点から～	100万	細菌学
^{こばやし のぶひで} 小林 伸英	金沢大学医薬保健研究域 医学系 助教	ボツリヌス菌が産生する膜小胞の病態生理学的意義の解明	100万	細菌学

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
すがぬま けいすけ 菅沼 啓輔	帯広畜産大学 グローバルアグロメディ シン研究センター 原虫病研究センター 助教	ニトロフランチン誘導体の アフリカトリパノソーマ症新 規治療薬としての薬効評価及 び作用機序の解析	100万	寄生虫学
たかぎ ゆうこ 高木 悠友子	国立研究開発法人産業技 術総合研究所バイオメデ ィカル研究部門 研究員	ドロップレットの微小環境を 利用したクルーズトリパノゾ ーマの培養手法ならびにアッ セイ系の開発	100万	寄生虫学
つじ げんいちろう 辻 巖一郎	国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部 主任研究官	アミン骨格を有する CDN 誘 導体を利用した新規バイオフ ィルム形成阻害剤の開発	100万	細菌学
とのむら しゅういち 殿村 修一	国立研究開発法人国立循 環器病研究センター 脳神経内科 医師	ケニア・ナイジェリアにおけ る蝕原性細菌と生体防御機構 の解明による脳卒中低減の取 り組み	100万	細菌学
はら ひでき 原 英樹	慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学 特任准教授	発展途上国で流行する細胞内 寄生菌の炎症応答を利用した 生体内増殖機序の解明	100万	細菌学
みなと ゆうすけ 港 雄介	藤田医科大学医学部 微生物学講座 講師	難治性非結核性抗酸菌症に対 する抗菌薬効果増強剤の開発	100万	細菌学
もり みほこ 森 美穂子	北里大学北里生命科学研究所 大学院感染制御科学府 微生物応用化学研究室 助教	アカントアメーバ角膜炎治療 薬シーズの探索～安心してコ ンタクトレンズを使用できる ように～	100万	寄生虫学
よしだ みつのり 吉田 光範	国立感染症研究所ハンセ ン病研究センター 感染制御部 主任研究官	コートジボワール共和国にお けるシングルセル・ゲノミク スを駆使したブルーリ潰瘍の 伝播・感染経路推定	100万	細菌学
			1,000万	

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202
電話 03-3614-7762

以上